



弘前大学

(青森県)

歴史豊かな弘前で日本を学び、世界に発信し、地域と共に創造する。

■大学紹介

① 大学の特色及び概要

1949年に設立されて以降、教員、医療関係者、エンジニア、公務員、企業人、経営者等の人材育成を担ってきた、歴史のある国立大学です。5学部、8研究科で多彩な分野の研究を行っています。

設立：1949年

学生数：合計：7,256人

学部生：6,013人

大学院：1,049人

留学生数：194人

(令和7年5月現在)

○学部

人文社会科学部、教育学部、医学部、理工学部、農学生命科学部

○大学院

(修士課程)
人文社会科学研究科
教育学研究科
保健学研究科
理工学研究科
農学生命科学研究科
地域共創科学研究科

(博士課程)
医学研究科
保健学研究科
理工学研究科
地域社会研究科

② 国際交流の実績

海外協定校58校（23カ国・地域）
海外拠点2箇所（中国1、タイ1）
(令和7年5月現在)

③ 過去3年間の受け入れ留学生数及び日本語・日本文化研修留学生（日研生）の受け入れ実績

2025年：留学生数194人、日研生4人
2024年：留学生数189人、日研生3人
2023年：留学生数188人、日研生3人

④ 地域の特色

弘前大学がある弘前市は、人口約16万人の町に4つの大学がある学園都市であり、かつて津軽藩の城下町として栄えた由緒ある町です。市の周囲は農村部で、比較的物価が安く、住みやすい町です。市はコンパクトにまとまり、大学の周囲には学生向けのアパート、スーパー、飲食店などで学生街が形成されています。市の繁華街にも歩いて15~30分程度で行くことができます。



弘前大学文京キャンパス正門

■研修・コースの概要

① 研修・コースの目的

- a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
- b) 主に日本語能力の向上のための研修

② 研修・コースの特色

○様々な分野の勉強が可能な環境

留学生用の日本語・日本事情関連科目、教養教育科目及び学部の専門科目など、幅広い分野の授業を受けることが出来ます。

また、各学生には学部の教員が指導教員として配置され、日本語能力に応じて指導を受けることができます。

○学部に所属して研究室の一員に

日研生は、人文社会科学部または教育学部のいずれかに所属しており、特に日本語能力の高い学生は、日本人学生とともにゼミナールに参加し、ゼミの行事にも積極的に参加しています。

過去3年間の日研生の在籍大学での主専攻

- 2025年度：日本語・日本文化
- 2024年度：日本語・日本文化・心理学
- 2023年度：化学工学・美術学

○充実した実地見学・体験学習

留学生向けの「日本語・日本事情関連科目」は実地体験、体験学習を多く取り入れています。

③ 受入定員

4名（大使館推薦2名、大学推薦2名）

④ 受講希望者の資格、条件等

専門によって以下の条件を加えます。

・日本で調査・研究活動を希望する学生は、調査・研究活動に必要な言語能力があること。

・日本で文献収集を希望する学生は、日本語で文献を読む能力があること。

⑤ 達成目標

研修・コースの目的に応じて、以下のとおり達成目標を設定する。

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修
弘前や日本についての多様な知識を獲得し、理解を深めること。

b) 主に日本語能力の向上のための研修
日本語：より高い総合日本語力（N2～N1超）を獲得すること。

⑥ 研修期間（在籍期間）

研修期間：2026年10月1日～2027年8月31日

1：秋学期 10月1日～2月上旬

2：春学期 4月上旬～8月上旬



津軽塗の体験学習

⑦ 奨学金支給期間

2026年10月～2027年8月

⑧ 年間行事・年間スケジュール（予定）

2026年

9月下旬： 渡日・秋学期オリエンテーション

10月： 総合文化祭

11月： 青森県留学生交流ジャンボリー

2027年

2月： 春季外国人留学生卒業者・修了者を送る会

4月： 春学期オリエンテーション
弘前さくらまつり

8月： ねぶた祭交歓会
秋季外国人留学生卒業者・修了者を送る会

8月中旬： 桔梗野町会国際交流夏祭り

8月下旬： 帰国

⑨ コースの修了要件

〇本プログラム修了者には、必修科目と選択科目を合わせて、1年で28単位の修得と修了レポートの提出を条件として、研修修了証書を授与します。成績証明書は、希望者に発行しています。

〇早期修了は認めていません。

⑩ 研修・コース科目の概要・特色

1) 研修・コース科目の特徴

〇研修・コースの目的に応じて、以下のとおり1学期7科目以上の授業科目を履修する。

a) 主に日本事情・日本文化に関する研修

必須科目：なし

選択科目：I～Vの中から1学期7科目以上を選択

b) 主に日本語能力の向上のための研修

必須科目：I（Iから1学期3科目以上を選択）

選択科目：II～V（必須科目・選択科目合わせて1学期7科目以上になるよう選択）

2) 研修・コース開設科目

I) 日本語科目（2025年度後期現在：開講科目は変更になる場合があります。）

(科目名)	(回数)
初級1～3（口頭表現）	週3回
中級1・2（総合）	週2回
中級（聴解）	週1回
中級（口頭表現）	週1回
中上級（読解）	週1回
中上級（作文）	週1回
中上級アカデミックジャパンーズ（聴解）	週1回
中上級（文法）	週1回
中上級・上級日本事情プレゼンテーション	週1回
上級（読解）	週1回
上級（講義の聴解・論文の書き方）	週1回

※日本語プレースメントテストの結果によって、自分のレベルに応じた日本語科目を受講することになります。

II) 日本語・日本事情関連科目

(科目名)
サークル活動に見る日本社会
日本の歌と文化

III) 研修科目で地域の見学や地域交流等への参加ができる科目

(科目名)

インターンシップ Webマーケティング
インターンシップ—ブーリング栽培、商品開発、マーケティング
インターンシップ—観光PR
インターンシップ—シティ・プロモーション
インターンシップ—Webマーケティング
インターンシップ—地域ツーリズム
インターンシップ—ホスピタリティ経営
インターンシップ—ティーチング・プラクティス
インターンシップ—アートツーリズム・プロモーション
地域プロジェクト ティーチング・プラクティス
TESOL ティーチング・プラクティス II A
地域観光と地域プロモーション

IV) 日本人学生との共修がある科目

(科目名)

地域の食と産業化
地域の社会・文化—津軽の近代文化史—
地域の国際化に役立つ「やさしい日本語」の実践
国際地域・社会・文化 トランサンショナリズムの音楽
異文化間コミュニケーション
英語による日本の文化と文学学習
地域プロジェクト 津軽地域文化国際共修
地域の経済・産業と地域経済・多文化共生社会とキャリア・日本の国際化
国際学生フォーラム（後期）
現代日本学-日本文学とアイデンティティの形成
現代日本学-日本の表象文化-
現代日本学-日本の女性による文学
現代日本学-現代日本文化論

V) その他所属学部において開講される授業・教養科目等

・学部学生・短期留学プログラム用の授業を受講しながら個々の専門に応じた資料収集、調査等の指導を受けます。



弘前ねぶたまつりに参加



⑪ 指導体制

・日本語担当教員

小山 宣子 国際連携本部 准教授
(日本語教育学)

長尾 和子 国際連携本部 准教授
(日本語教育学)

高橋 千代枝 国際連携本部 助教
(日本語教育学・語用論・国際共修)

・日本文化・日本事情担当教員

諫訪 淳一郎 国際連携本部 准教授
(文化人類学・日本文化論・日本思想)

サワダ ハンナ 国際連携本部 准教授
(比較文学・文化)

学業面では、主に学部の指導教員および国際連携本部の教員が、生活面では、指導教員および国際連携本部の職員が指導・助言を行います。

■宿舎

・国費外国人留学生を対象とした宿舎は現在ありません。希望により、市内のアパート（3~4万円程度）を紹介します。

・初期費用については、日本到着後、弘前大学生協で手続する際に約10~15万円程度を支払う必要があります。

(内訳：家賃、共益費、清掃費、共済加入、保証会社への加入等)

○大学周辺の生活情報

大学周辺には、病院、銀行、郵便局、スーパーがあり、大学周辺には学生用の安価なアパートが数多くあるので、生活する上で支障をきたすことなく勉学に励むことができます。

■修了生へのフォローアップ

○フォローアップ実績の一例

- ・修了レポートを卒業論文へ活かすために、弘前大学教員がサポート
- ・弘前大学大学院へ入学する学生へ弘前大学教員がサポート

○修了後のキャリアパスの一例

- ・母国で日本語教員として就職
- ・母国や日本の企業で専門性を生かした仕事に従事

■問合せ先

<担当部署>

弘前大学国際連携本部

住所：〒036-8560
青森県弘前市文京町1
TEL：+81-172-39-3109（直通）
FAX：+81-172-39-3133
Email：jm3109@hirosaki-u.ac.jp

<ウェブサイト>

弘前大学国際連携本部：
<http://www.kokusai.hirosaki-u.ac.jp/>
弘前大学：
<https://www.hirosaki-u.ac.jp/>